

令和5年度 有明高専2年生におけるシンガポール研修報告

谷口 光男・鮫島 朋子・酒井 健・竹内 伯夫・高本 雅裕・

山崎 英司・村端 啓介

〈令和6年1月9日受理〉

Report on second-year students' study tour to Singapore in Ariake Kosen

TANIGUCHI Mitsuo・SAMESHIMA Tomoko・SAKAI Takeshi・TAKEUCHI Norio・
TAKAMOTO Masahiro・YAMASAKI Eiji・MURAHATA Keisuke

Ariake Kosen conducted its first second-year students' study tour to Singapore in 2023. It was a part of the training project for young global engineers. This report aims to organize the problems we faced during the tour, and to lead the project in following years to success through the analysis of questionnaire for the students on the tour.

1. 背景

国立高専機構は、学生をグローバルに活躍できる技術者(「グローバルエンジニア」)として育成するため、学生の国際コミュニケーション力向上や、海外で積極的に活動するマインド等を育成する優れた取組みを重点的に支援する「グローバルエンジニア育成事業」を令和元年度に開始した¹。「グローバルエンジニア育成事業」には2つのプログラム(基礎力養成プログラムおよび高度育成プログラム)があり、有明高専は、「海外研修をスプリングボードにした低学年次におけるグローバルエンジニア養成プログラム」(以下、GEプログラムと略記)として基礎力養成プログラムに応募し採択された。

GEプログラムは、低学年次学生全員の海外研修を軸にして、どのような環境においても、工学と英語という共通言語を武器に行動できるグローバルエンジニアを育成することを目的とする。

具体的には、1年次において、英語多読授業と並行してネイティブスピーカー非常勤講師による少人数制英語コミュニケーション授業を行い、英語への苦手意識の克服と基礎的コミュニケーション能力を育成する。また、研修時の体験を想定した異文化理解のための自立的な学習“StepUp AL”を実施するとともに、学内

“English Lab”を使った英語に親しむ授業時間外のイベントを拡大する。

2年次において、学生全員参加のシンガポール研修を実施し、現地学生との市内探訪等を通じて英語の有用性と異文化を体験し学生の向学心を刺激する。また、後期より外国人教員による「専門基礎演習」を英語で実施する。

3年次において、習熟度別授業や短期留学生・外国人非常勤講師による英語による講演“StepUp Stage”を実施する。また、“English Lab”で協定校とのSkypeによる交流を拡大する。

こうした学年別取組みに加え、学生自身が英語力向上を把握するため各学年でTOEIC Bridge[®] Testsを実施することで、GEプログラムは目的達成を目指している。とりわけ、その中核となるのが2年次におけるシンガポール研修(以下、SG研修と略記)である。

GEプログラムはコロナ禍での事業出発となり、SG研修も中止を余儀なくなされてきたが、事業最終年度である令和5年度に初めてとなるSG研修を実施した。本稿はその覚書である。SG研修の概要と学生による事後アンケートを軸に、次年度以降の課題を抽出することがねらいである。

¹ 国立高専機構ホームページ参照

(https://www.kosen-k.go.jp/about/global/international_exchange/GEprogram.html)。

2. 実施方法

SG 研修3泊5日の主な日程を表1に示す。

1日目は、10:00に福岡空港を出発し15:00にチャンギ国際空港に到着後、バス5台でマーライオン公園を中心に市内観光を行なった²。

2日目は、8:30から4つの観光地（マリーナバラーヂ、国立博物館、国立植物園、ラッフルズ卿）をクラス毎に周遊した。

3日目は、9:00からB&Sプログラムを実施した。これは、各クラス6班に編成したグループ活動で、各班に1名の現地学生（大学生）をガイドとして、事前に計画したさまざまなスポットを学生自身で巡るというものである。

4日目は、9:30からガーデンズバイザベイを見学後、セントーサ島で班別自主研修を行い、20:00からマリーナベイサンズでスペクタクルショーを鑑賞後、チャンギ国際空港に移動し、01:20の便で帰路についた。

5日目は、8:35に福岡空港に到着後、9:30にクラス毎に現地解散し研修を終えた。

研修期間中の食事は、宿泊先のホテルでの朝食を含め、200名以上の団体行動ゆえに、昼食・夕食も「中華料理」レストランでとることになった。ただし、研修3日目の昼食・夕食と4日目の昼食は班別研修のため各自で済ませた。

表1 主な日程

日程	主な内容
Day 1	移動日、市内研修
Day 2	市内研修
Day 3	B&S プログラム
Day 4	セントーサ島研修、スペクタクルショー
Day 5	移動日



マーライオン公園



ラッフルズ卿 像



ガーデンズバイザベイ



マリーナバラーヂ



B&S プログラム



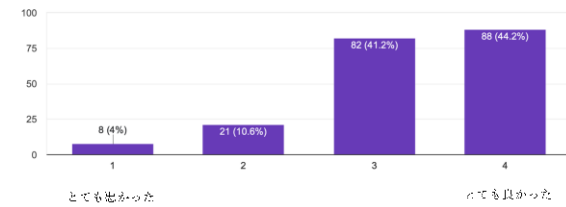
食事の様子

² 航空機手配の都合、福岡空港直行便とは別に、羽田空港経由便のグループがあり、福岡空港直行便の一日前から移動し、マーライオン公園で合流した。

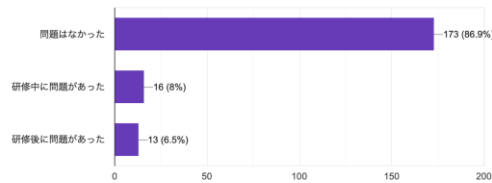
3. 帰国後アンケートの結果

研修終了後に実施した学生アンケートの主な結果を以下に示す。

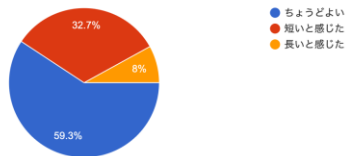
Q1. コース分けを考慮して、実施時期を「夏休み期間 8月末～9月」に設定しました。実施時期は良かったですか？
199件の回答



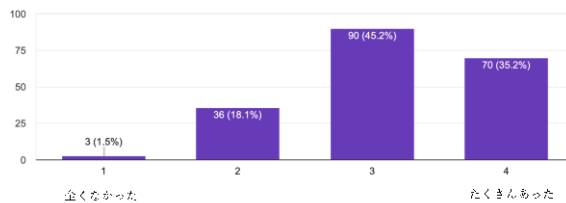
Q2. 研修中および研修後に体調に問題はありましたか。(複数回答可)
199件の回答



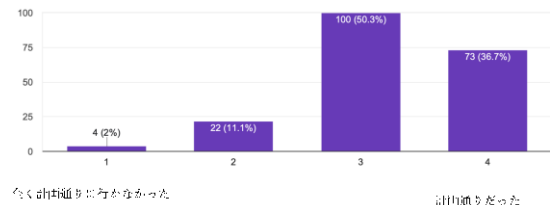
Q3. 研修期間(3泊5日)の長さはどうでしたか。
199件の回答



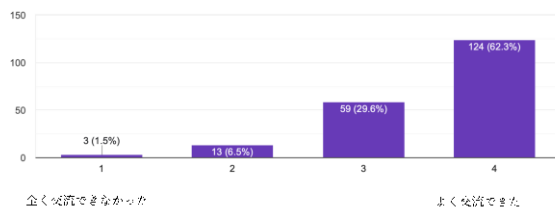
Q4. 自分で英語を使う機会がありましたか。
199件の回答



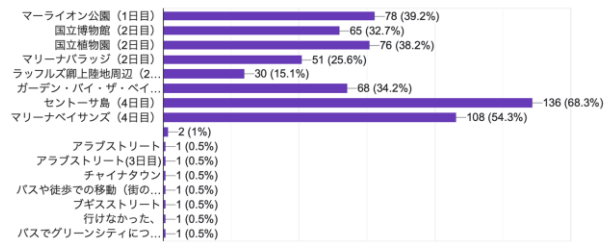
Q5. B&Sプログラムは計画どおりに進められましたか。
199件の回答



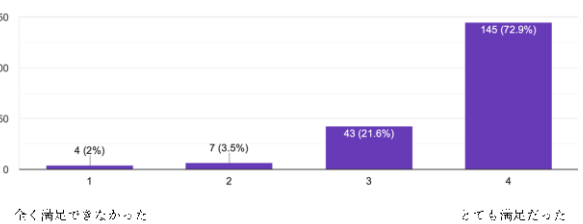
Q6. B&Sプログラムで、現地学生ガイドとの交流はうまくできましたか。
199件の回答



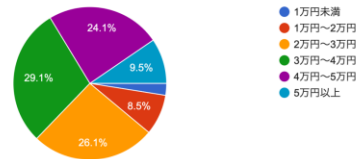
Q7. B&Sプログラム以外の研修で、よかった/今...に立つと思った訪問先はどこですか。(複数回答可)
199件の回答



Q8. 全体として、今回の研修は満足でしたか
199件の回答



Q9. 現地で使った金額は、大体いくらですか。
199件の回答



Q8では、アンケート回答者中 94.5%の学生が「満足」であったということで、初めてのSG研修の目的（「英語の有用性と異文化を体験し学生の向学心を刺激する」）は、ほぼ達成できたといえよう。それは、80.4%の学生が実際に英語を使用し（Q4）、学生ガイドとの交流（英語によるコミュニケーションを含め）も91.9%の学生が「できた」（Q6）と回答していることから伺える。

一方、Q2で、研修中および研修終了後に何らかの体調不良を訴えた学生が14.5%いたことも看過できない。初めての海外研修で、飛行機での移動に加え、熱帯気候での屋外活動も大いに影響を与えたことは容易に想像できる。さらに、現地で感染症（インフルエンザ）に罹患した学生が多数出たこともあり、海外研修の難しさを痛感させられた。

4. まとめと今後の課題

高専は5年間の一貫教育を行う高等教育機関であり、2年生という低学年次にほぼ全員の学生が海外研修を経験できたことは、「グローバルエンジニア」を目指す上で、「英語の有用性と異文化を体験し学生の向学心を刺激する」というGEプログラムの目的達成に向けて、効果が期待できるものであった。今後英語力向上の成果がみられるかは、3年次でのTOEIC Bridge® Tests、4年次でのTOEIC® Testsの結果で検証する必要があるが、SG研修終了時点で「学生の向学心を刺激する」ことはできたようである。学生アンケートの結果から見るとGEプログラムの中核となるSG研修初年度は、成功裏に終了したといえるだろう。

一方で、課題も浮かび上がってきた。その大半は、研修前の事前準備段階についてのものである。

コロナの影響もあり、旅程に関する基本情報が急遽変更になるなど、学生に向けた研修に関する情報発信が遅くなってしまった。それに加え、研修期間が夏休み期間中であったため、学生が抱えがちな出発前のさまざまな不安を解消することが難しかった。引率教員、主に学級担任としては、どこまで学生自身の主体性を重んじて準備させるかも要領をえないところがあった。新年度になった4月から8月末の出発までの期間で、学生にいつ・どのような情報を発信し、どう準備を進めさせるか、全体的な「行程表」を作成・整理していく必要がある。

また、SG研修の旅程も見直す余地がある。6:30の朝食から始まり19:00前後にホテルへ戻るまで、一日の研修内容がタイトな上に、熱帯性気候の中、屋外活動が続くことで、体調不良の学生を誘発したことは容易に想像できる。「せっかくの海外だから」と盛り沢山になりがちだが、学生の健康・体調管理を前提に無理のない旅程を追求するほうが望ましい。

次に、リスク・マネジメントについて。海外研修を実施する上で、国内とは異なるさまざまなリスクを想定しておかなければならない。今回は大きな怪我や事件・事故に巻き込まれるケースはなかったが、感染症に罹患する学生が多数出てしまった。現地での罹患した学生のケアをはじめ、当該学生の保護者への連絡や帰国できない場合の対処など、事前の想定を超える状況に陥ってしまった感は否めない。基本的な「対処マニュアル」を作成し関係教職員間で共有しておくことの必要性を痛感させられた。

さらに今回は、研修引率者のうち1名が体調不良のため直前で不参加となり、1名減での引率体制となった。旅行代理店スタッフの助力があるとはいえ、感染症罹患学生への対応に追われる教職員が出たことを考えると、研修引率者の増員も検討の余地があろう。

その一方で、B&Sプログラムなどの引率教員が帯同しない班行動において、迷子や対人トラブルなどがほとんど見られなかった点については、当初の予想以上であった。シンガポールの治安の良さと地下鉄を始めとする公共交通機関の充実度は他の西洋諸国やアジア諸国よりも優れており、狭い国土とあいまって自由行動を伴う研修を初めて行う学生にとって、比較的安全かつ安価でさまざまな場所に移動できる点が理想的だと感じられた。

その他、入国・出国手続き、パスポートなどの管理、現地での通信手段の確保、学生の健康管理把握、など海外研修に特有の諸問題にどう対応していくか、初年度となった今回の研修で得た知見を共有し、次回以降の研修がさらに実り多きものとなることを期待している。

謝辞

SG研修は本学内の多くの担当教職員の支援を受けて実施された。

引率に同行されたメカニクスコースの原慎真也教授をはじめ、国際交流室の山口英一室長、田端亮副室長、GEプログラムの村岡良紀教授（以上3名は一般教育科所属）、学生課の江崎浩課長、新里雄教務係長、奥菌ひろみ教務係員には多大な支援をいただいた。

さらに、3年生の担任各位と情報共有しながら進められた。ここに感謝の意を表したい。